

(第1面)

<p>産業廃棄物処理計画書</p> <p style="text-align: right;">令和 7年 4月25日</p> <p>石川県知事 殿</p> <p style="text-align: right;">提出者 住 所 石川県白山市湊町ソ64-2 氏 名 D I C株式会社 北陸工場長 田村 輝彦 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 076-278-2332</p> <p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	D I C株式会社北陸工場、D I Cグラフィックス株式会社北陸工場
事業場の所在地	石川県白山市湊町ソ64-2
計画期間	令和7年4月1日から令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	化学工業 化学工業製品 (中分類16)
②事業の規模	生産数量 製品 : 35,167 t 中間体 : 2,786 t 生産金額 製品 : 20,879百万円 中間体 : 2,988百万円
③従業員数	DIC(株) 北陸工場 259名 (この他嘱託として産業医1名、組合専従パート 1名) DICグラフィックス(株) 北陸工場 6名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>The flowchart, titled '産業廃棄物の発生処理フロー', shows the process from '発生源' (Source) to '廃棄物名' (Waste Name) and finally to '中間処理・最終処理' (Intermediate/Final Processing). The source includes chemical processes and waste types like sludge and wastewater. The waste names listed include various chemical residues and wastewater. The final processing stage involves incineration, landfill, and other treatment methods.</p>

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項							
(管理体制図) 廃棄物管理規則 付属書 (別表-1) 廃棄物管理者一覧表 23.05.12							
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項							
① 現状	【前年度 (令和6年度) 実績】						単位トン
	産業廃棄物の種類	汚泥 燃えがら ばいじん	廃油	廃酸 廃アルカリ	廃プラ	木くず	ガラス 陶磁器くず がれき類
	排出量	17,448	1,106	293	223	31.6	4.6
	(これまでに実施した取組) ・震災の影響で生産数量が減り、結果廃棄物も全体的に減った。 ・エネルギー価格の高騰でバイオマスボイラの稼働率が増加、これに伴い燃えがら、ばいじんも増加。 ・廃水処理設備の安定稼働を図るため汚泥が増加。						
② 計画	【目標】						単位トン
	産業廃棄物の種類	汚泥 燃えがら ばいじん	廃油	廃酸 廃アルカリ	廃プラ	木くず	ガラス 陶磁器くず がれき類
	排出量	17,273	1,095	290	221	31.3	4.55
	(今後実施する予定の取組) ・特に予定はない。						
産業廃棄物の分別に関する事項							
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・従来、直接焼却かリサイクルプラで処理していた廃プラスチックを有価売却し、有効料率の更なる向上を図った。						
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・特に予定はない。						

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】 単位トﾝ		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0トﾝ	0トﾝ
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】 単位トﾝ		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0トﾝ	0トﾝ
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】 単位		
	産業廃棄物の種類	廃油	汚泥
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	1,001トﾝ	0トﾝ
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	1,001トﾝ	16,322トﾝ
	(これまでに実施した取組) ・排ガス・廃液焼却炉施設の適正稼働維持。		
② 計画	【目標】 単位		
	産業廃棄物の種類	廃油	汚泥
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	991トﾝ	0トﾝ
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	991トﾝ	16,159トﾝ
	(今後実施する予定の取組) ・排ガス・廃液焼却炉施設の保全に努めてゆく。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項							
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】単位						
	産業廃棄物の種類	—		—			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 ^ト ン		0 ^ト ン			
	(これまでに実施した取組)						
② 計画	【目標】単位						
	産業廃棄物の種類	—		—			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 ^ト ン		0 ^ト ン			
	(今後実施する予定の取組)						
産業廃棄物の処理の委託に関する事項							
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】						単位 ^ト ン
	産業廃棄物の種類	汚泥 燃えがら ばいじん	廃油	廃酸 廃アルカリ	廃プラ	木くず	ガラス 陶磁器くず がれき類
	全処理委託量	1,126	1,106	293	223	31.6	4.6
	優良認定処理業者への処理委託量	1,126	105	55	223	31.6	4.6
	再生利用業者への処理委託量	1,126	28	0	5	31.6	4.6
	認定熱回収業者への処理委託量	411	12	0	6	0	3.0
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.99	66	0	212	0	0
(これまでに実施した取組) ・近傍の処理業者や新規業者の視察を実施。							

	【目標】	単位トン					
		産業廃棄物の種類	汚泥 燃えがら ばいじん	廃油	廃酸 廃アルカリ	廃プラ	木くず
② 計画	全処理委託量	1,115	1,095	290.4	221	31	5
	優良認定処理業者への 処理委託量	1,115	104	54.9	221	31	5
	再生利用業者への 処理委託量	1,115	27	0	5	31	5
	認定熱回収業者への 処理委託量	407	12	0	6	0	3
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	1	65	0	210	0	0
	(今後実施する予定の取組) ・廃プラスチックの有価買取量を増量中。						
※事務処理欄							

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。